ふじさわネット通信

2024年4月　　第58号

発行　みんなの教育・ふじさわネット
代表　松本 一郎　TEL･FAX　0466-33-4820
ホームページ https://mkfnet.com
E-mail　info@mkfnet.com

この夏中学校教科書採択 育鵬社No！再び

2020年7月31日教科書採択報告集会で撮影
藤沢市役所会議室

今年は中学校の教科書を採択する年です。前回2020年の採択では、歴史と公民の教科書は東京書籍が採択され、2012年から9年間続いた育鵬（いくほう）社教科書の使用は終わりになりました。

藤沢市で育鵬社の歴史と公民の教科書が採択されたのは2011年。教育長（当時）は歴史や公民の協議の冒頭、「各教育委員のご意見、ご協議を見守らせていただきたい」と発言し、不参加を表明。海老根市長（当時）により選ばれた教育委員3名が育鵬社を強く推し、3対1で両方が育鵬社に。異常で、現場の声とはかけはなれた採択でした。4年後2015年の採択、教育長（当時）が育鵬社以外を推薦し、十分な審議を求めたにもかかわらず、強引な進行で再び育鵬社を採択しました。

前回2020年の採択では、各中学校から出された教科用図書調査書、教科用図書採択審議委員会の答申、教科書展示会等で書かれた市民意見書を尊重した審議が行われ、公民、歴史ともに学校現場の評価も高かった東京書籍が採択されました。

詳しい経過等は当会のホームページ（HP）に掲載の「ふじさわネット通信」のバックナンバーでお読みいただけます。また、学習会や署名などに一緒に取り組んだ「藤沢とりくむ会」のHPに歩みを振り返る記事があります。右アドレスでご覧ください。

みんなの教育・ふじさわネットHP
https://mkfnet.com
藤沢とりくむ会HP
https://www.fujisawatorikumukai.com

会議の傍聴や意見書提出など　市民の参加を

採択にかかわる日程はおよそ右の表のようになると予想されます。 学習会の開催や参加、教育委員会や採択審議委員会の傍聴、教科書展示会への参加と意見書の提出、その一つ一つが開かれた採択、市民や現場の声が尊重された採択につながります。

５月教育委員会定例会	方針･日程等決定
５月下旬～６月中旬	教科書展示会
５月下旬～６月上旬	各中学校長が教科用図書調査書作成・提出
６月上旬～７月中旬	教科用図書採択審議委員会
７月下旬～８月上旬	教育委員会で採択決定

講演会

教科書を　どう選ぶ

子どもたちにどんな教科書を手渡したいか

講師　**樋浦敬子**さん（藤沢とりくむ会）

2024年5月19日（日）　13:30～16:00
開場13:00

藤沢市民会館第二展示ホール

参加費　500円

主催：みんなの教育・ふじさわネット
共催：藤沢の教科書･採択問題にとりくむ会

案内チラシから

今年は3月に検定を合格した中学校の教科書が、教育委員会で採択される年です。藤沢市では市内の各中学校、市役所で「中学校教科書展示会」が行われ、市民、保護者が教科書を自由に見ることができ、また意見書を書いて出すことができます。教科書の編集、検定、学習指導要領の問題など、教科書の内容にかかわるさまざまな問題を一緒に考えましょう。そして子どもたちに合った、しっかり学べる教科書が採択されるよう、力を合わせていきましょう。

マンモス校(過大規模校)解消･･･学区見直しでは限界

藤沢市立辻堂小学校の学校だより（2023年7月号）に次の記述があります。
『児童数が1300人近くおり、学級数も39クラスと多く、教室が足りなくなりそうなので、大コモンを教室にできるよう改装しています。来年度の新１年生については、保護者の申請により人数の制限がありますが、近隣の小学校（浜見小・鵠南小）学区に変更が可能になる制度「辻堂小学校区就学指定校変更制度」が始まります。』（下線は引用者）

藤沢市教育委員会は「クラス数を抑制し、よりよい教育環境を整えるため」として新たな取組「辻堂小学校区就学指定校変更制度」を実施しました。鵠南(こうなん)小は受入予定人数10人程度に対し希望者は12人、浜見小は受入予定人数25人程度に対し希望者は4人。12月5日に予定された抽選は実施されず希望者をそのまま受け入れました。

この4月の辻堂小入学者は192人(6クラス)、全校では2023年度と変わらず39クラスでした。

藤沢市立学校適正規模・適正配置第１期実施計画【令和6年度～令和10年度】は、「より良い教育環境の確保に向けて第１期計画では、児童生徒数推計において2040年（令和22年）の時点で31学級以上の過大規模校の解消を第一優先とします。」としています。その具体的な手法は、「通学区域の見直し」です。新しい学校や分校の設置は計画にありません。今回の辻堂小の学区の変更では希望者は少なく過大規模校の解消には至りませんでした。大規模校(25～30学級)、過大規模校(31学級以上)ではプレハブ校舎、特別教室の普通教室への転用、子どもの活動する面積の狭小化、過密による衝突の危険などなど劣悪な教育環境にあります。学区の見直しでは限界があり適正規模(12～24学級)の実現は困難です。

下図は藤沢市立学校適正規模・適正配置第１期実施計画から

教育委員会が学校適正規模・適正配置の取組でめざすもの
目的:～未来を生きる子どもたちのために～より良い教育環境の整備
目標:「適正規模」(小中学校ともに12～24学級)とする

学級数の推移　（第１期実施計画P4表から作成）

年度	2022年	2025年	2030年	2035年	2040年
	R4	R7	R12	R17	R22
鵠沼小	28	29	24	33	36
六会小	28	30	30	32	36
辻堂小	39	39	32	34	32
鵠洋小	35	39	41	38	36
八松小	24	26	24	30	32

右の写真と下の説明文は朝日新聞2024年4月7日から
「教室転用を免れた図書室には、いったん運び出された蔵書が山積みになり、学校司書が本棚に戻す作業に追われていた＝2024年4月4日、藤沢市立鵠洋小学校、足立朋子撮影」

～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～

みんなの教育・ふじさわネット

学習会と総会　2024年1月27日

「職員が足りない」「過労死ラインをはるかにこえる時間外労働」など学校現場等についての問題提起、過大規模校の保護者からの実態報告のあと、自由な話し合い。発言の紹介。

「マンション建設に、しばりがないから、業者がどんどん建てられる。歯止めはかけることができる。」「過大規模校の問題は、街づくりの問題で、六会小はもう30年以上、プレハブのまま。」「大規模校の運動会では、我が子を探すのに大変で、子どもがわかるように派手な靴下をはかせたりしている。」「マンション建設では、当初、子どもの数は減ります、などのんきに構えていた政策があった。分校や分教室も考えるべきだ。」

35人学級へ前進したように、教員をふやし、教育環境をよくしていく運動を大きく広げていけますように、と願わずにはいられない学習会でした。